

Fresh Talk

～ フレッシュトーク ～



オホーツク温泉ホテル日の出岬

^{えんどう} ^{いのり}
遠藤 祈里 さん (宮下町)

「いんにちは」と声をかけてくれたのは、笑顔が印象的な女性でした。
取材でホテルを訪れると、受付カウンターで出迎えてくれたのが今回の主役、遠藤さんです。雄武高校を卒業後、昨年4月からホテル日の出岬に勤務しています。ホテルではレストラン業務、カウンター業務や予約管理を担当しています。
「高校ではボランティア部に所属し、活動の中で幅広い年齢の人と関わるうちに人と接するのが好きになりました」「就職活動で町内での仕事を探していたところ、広報おうむに掲載されていたホテル従業員募集の記事を見て、接客業であるホテル

の仕事に関心を持ち応募を決意しました」と当時の様子を語ります。
職場では一番の若手となる遠藤さんですが「学校が夏休み期間になるとたくさんのお客様のご利用があり嬉しい反面、限られた人数でいかにスムーズに進められるか考えるのが大変です。次に何をすべきかを考えながら働けるように努力を続けています」と仕事の難しさを語る一方で「お客様に笑顔でお礼を言われた時が一番うれしく、仕事にやりがいを感じます」と頼もしい一面も。
最後に今後の意気込みを遠藤さんに聞くと「ホテルに来て頂いたお客様さまが、雄武町にまた訪れたいと思っていただけるように、日々の業務を頑張ります」と優しい笑顔で話してくれました。

雄武町民憲章 (町民の誓い)

雄武町民わたしたちは、オホーツクのきびしい自然を生かし、父祖・先人の労苦を感謝しながら、郷土愛にみちた町づくりと、ひとりひとりのしあわせのため、一すこやかに、なごやかに、まめやかに一 励まし合い、希望と自信をもって、生きがいある生活につとめ、たしかな未来につながる信条をかかげて、朝夕守りとおすことを誓い合います。

- 一、自然を生かし、住みよい環境をつくります。
- 一、きまりを守り、明るい社会をつくります。
- 一、ともに助け合い、楽しい職場をつくります。
- 一、元気に働き、豊かな家庭をつくります。
- 一、希望に生き、たくましい雄武町民となります。

昭和 46 年 3 月 19 日制定

◆編集後記

Editor's note

▼夏休みになると児童センターが子どもで賑わうと聞き、夏休み初日に訪れてみると、半分くらいの子どもは宿題をやっていました。センターの職員に聞いてみると自発的にしているそうです。今の子どもは偉いですね。そんな僕は最後の3日間焦ってやるタイプでした。(大辻)

▼7月は観測史上最高気温に驚きでした。実は昨年、とても暑い日に水分が摂れず、部屋に戻った瞬間に意識を失いかけたことがあります。あわてて水分を補給し事なきを得ましたが、恐ろしい体験でした。まだ暑い日が続きます、熱中症対策に水分塩分の補給をお忘れなく！(内宮)